

第2次小牧市学校教育 ICT 推進計画の取組状況⑦

5. 学校からの積極的な情報発信と校務支援システムの整備

具体的な取組み	R3	R4	R5	R6	R7	R8
① 学校からの積極的な情報発信						
学校ホームページ	充実	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
保護者メール・ 学校－保護者間の連絡方法のデジタル化	検討	試行	学校－保護者間の連絡方法のデジタル化	⇒	⇒	⇒
② 校務支援システムの機能改善・クラウド化の検討	C4th ポータブルの導入	機能改善・クラウド化の検討	次期システムの検討	⇒	⇒	⇒
③ 校内情報ネットワークの整備	ネットワーク分離	機能改善の検討	⇒	⇒	⇒	⇒
④ 図書管理ツールの整備	更新・活用	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
当初 (R4.3)	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域との連携を図るため、積極的に学校での出来事をホームページや保護者メールで発信します。 保護者からの欠席連絡や連絡帳、各種配布物など、学校・保護者間の連絡手段のデジタル化を進めます。 円滑な教育活動が進められるように、校務支援システムや校内情報ネットワーク、図書管理ツールなど、教育活動を支える様々なシステムの機能改善を検討します。 					
R7実績 (R8.2)	<p>②愛知県が検討を進める「域内次世代型校務支援システムの共同調達について」情報収集を行いました。</p> <p>【参考】（R8.1月末 HPアクセス数：3,668,994件、R8.1月末保護者アプリ登録率：92.2%）</p>					

第2次小牧市学校教育 ICT 推進計画の取組状況⑧

5. 学校からの積極的な情報発信と校務支援システムの整備

具体的な取組み	R3	R4	R5	R6	R7	R8
⑤ 学校徴収金システム・保健システム等の整備	機能改善の検討	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑥ 遠隔操作システムの整備	⇒	⇒	⇒	⇒	更新	⇒
当初 (R4.3)	<ul style="list-style-type: none"> 学校徴収金事務及び学校保健活動が円滑に進むように、適宜各システムの機能改善を検討します。 こども及び保護者の個人情報を含む情報の漏えい・紛失等を防止するため、外部から校務支援システム等にアクセスできる遠隔操作システムを活用します。 					
R7実績 (R8.2)	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き安定的な運用に努めました。 					

第2次小牧市学校教育 I C T 推進計画の取組状況⑨

6. 非常時・緊急時における活用

具体的な取組み	R3	R4	R5	R6	R7	R8
①タブレットP Cの持ち帰り	小学4年生以上 低学年試行	全学年実施	⇒	⇒	⇒	⇒
②家庭学習における活用	試行・実施	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
当初 (R4.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時休校時を想定し、タブレットP Cの持ち帰り及びオンライン学習の実践を進めます。 ・ 家庭学習において、I C Tの効果的な活用を進めます。 					
R7実績 (R8.2)	<p>①全学年で日常的な持ち帰りを実施し、学級閉鎖時にはオンライン学習の実施を依頼しています。 ○週1回以上タブレットを持ち帰っているクラスの割合 小学校：38.1%（R6：34.2%）、中学校：53.5%（R6：40.9%）</p> <p>②校長会・教務主任会等を通じて、家庭学習におけるデジタルドリル・学習者用デジタル教科書等の活用について周知しました。</p>					

第2次小牧市学校教育 I C T 推進計画の取組状況⑩

◆進捗状況を測定するための指標一覧

	基準値 (R3.3)	実績値 (R7.3)
教材研究・指導の準備・評価・校務などに I C T を活用する能力	88.8 (県平均 : 83、全国平均 : 86.3)	91.4 (県平均 : 87.5、全国平均 : 90.7)
授業に I C T を活用して指導する能力	73.6 (県平均 : 64.1、全国平均 : 70.2)	84.1 (県平均 : 77.4、全国平均 : 82.2)
児童生徒の I C T 活用を指導する能力	75.3 (県平均 : 68.9、全国平均 : 72.9)	81.6 (県平均 : 78.6、全国平均 : 83.1)
情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	84.2 (県平均 : 81、全国平均 : 83.3)	90.4 (県平均 : 86.4、全国平均 : 89.2)

※文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」より

	項目	基準値 (R3.2)		実績値 (R7.12)	
		小学校	中学校	小学校	中学校
教員の I C T 活用状況	1 日 1 回以上タブレットPCを活用しているクラスの割合	27.2	49.4	63.8	92.9
	1 日 1 回以上授業支援ソフトウェアを活用する教員の割合	16.2	22.4	59.7	62.7
	週 1 回以上デジタルドリルソフトウェアを活用する教員の割合	66.2	29.8	54.3	47.0
パイオニア校	タブレットPCを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合	88.2	72.1	90.6	91.8
	授業の中で I C T 機器を活用したいと感じている教員の割合	100	98.3	98.8	93.8

※ICT機器の稼働率・使い勝手に関するアンケート、小牧市学校教育ICTパイオニア校事業の推進にかかるアンケートより

第2次小牧市学校教育 I C T 推進計画の取組状況①

1. 全体計画や運用ルールなどの整備

具体的な取組み	R3	R4	R5	R6	R7	R8
① 学校教育ICT推進計画の見直し	第2次計画策定	第2次計画の実施 進捗状況確認	⇒	⇒	⇒	計画見直し 第3次計画策定
② セキュリティポリシー、 実施手順の見直し	見直し	運用	⇒	⇒	⇒	⇒
③ 情報リテラシーのカリ キュラムの再編成		見直し	実施	⇒	見直し	実施
当初 (R4.3)	<ul style="list-style-type: none"> 小牧市では、日々の学習活動を支え、こどもたちの時代を切り拓く力を高めるために必要な I C T 環境の整備を計画的に行っていきます。 クラウドシステムの活用が前提のなかで、I C T 教育を進めていくためには、情報漏洩対策が欠かせません。人的、組織的、また技術的な情報セキュリティに対する考え方を統一し、セキュリティポリシーと運用マニュアルを検証し、学校現場及び I C T 環境の変化に即した規定を整備していきます。 I C T が社会に浸透し、これからの社会を生き抜いていくこどもたちは、I C T を使いこなす力を身に付ける必要があります。将来を見越して、こどもたちの発達段階に応じた情報リテラシーのカリキュラムを再編成します。 					
R7実績 (R8.2)	<p>①各取組みの進捗状況について、小牧市情報教育 I C T 推進委員会に報告し、意見をいただくことにより進捗管理を行いました。（令和7年度：2月4日開催）</p> <p>③各学校の教員で構成されるIT活用研究委員会で作成した、情報活用における問題解決能力指導カリキュラムチェックリストを引き続き活用をしています。また、小学校プログラミング教育のモデルカリキュラムの策定を行っています。（資料3参照）</p>					

第2次小牧市学校教育 I C T 推進計画の取組状況②

2. パイオニア校での実践検証

具体的な取組み	R3	R4	R5	R6	R7	R8
①各種ソフトウェアの活用検証	活用検証	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
② I C T 機器・ネットワーク環境の試行検証	検証	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
当初 (R4.3)	<ul style="list-style-type: none"> パイオニア校において、I C Tを活用した「わかりやすい授業」の実現、授業におけるこどもたちのI C T活用力向上に向けた各種ソフトウェアの活用実践の検証を進めていきます。 新たなI C T機器及びネットワーク環境を整備する際に、パイオニア校において使い勝手等を検証します。 					
R7実績 (R8.2)	<p>①篠岡中学校：iPad純正アプリ「P a g e s」「N u m b e r s」等、小牧南小学校：遠隔教育「Teams」「Zoom」等の活用検証を行いました。</p> <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 各パイオニア校の個別テーマについて研究実践を行い、実践結果をとりまとめる予定です。（資料4参照） パイオニア校との情報共有を図るため、定期的にパイオニア校と事務局とで情報交換会を開催しました。（令和7年度：5回（学期ごと）開催予定、令2・3・4・5・6年度：各5回開催） こども、保護者及び教員を対象とする意識調査を令和7年11～12月に実施し、調査結果を市ホームページに掲載します。（資料5参照） 					

第2次小牧市学校教育 I C T 推進計画の取組状況③

3. 学習時における I C T 機器の利用環境整備

具体的な取組み	R3	R4	R5	R6	R7	R8
①校内有線LAN等の改修	ネットワーク環境の事前評価	校内の各校LANの状況確認・再構築の検討	職員室LAN回線更新	⇒	⇒	⇒
②校内無線LANの拡充		図書室・柔剣道場		未整備の特別教室等		
③インターネット回線の改修	通信状況の把握・高速通信環境の研究	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
④児童生徒用タブレットPCの更新		整備手法等の検討	⇒	更新（先行分） ※一部中学校	更新	
⑤PC教室の整備	あり方の検討	⇒	小学校廃止 中学校再整備			
⑥大型提示装置の整備				更新		

当初
(R4.3)

- ・ I C Tを活用した「わかりやすい授業」の実現に向けて、よりよい学習環境の構築ができるよう整備を進めます。
- ・ クラウドサービスの利用を前提とし、1人1台タブレットP Cを利用した学習環境の構築に向けて、各学校のL A Nや学校とセンターサーバ間の回線について再整備を検討します。
- ・ 児童生徒用タブレットP Cの更新について、O S及び機種をはじめ、B Y O DやC Y O Dなどの整備手法等も含めて検討します。
- ・ コンピュータ教室について、小学校の端末の更新は行わず、プログラミング教育・印刷作業等の活動スペースとしての有効活用を進めます。

第2次小牧市学校教育 I C T 推進計画の取組状況④

3. 学習時における I C T 機器の利用環境整備

具体的な取組み	R3	R4	R5	R6	R7	R8
R7実績 (R8.2)	<p>③各校のインターネット回線の通信速度を1Gbpsから10Gbpsに増幅しました。</p> <p>④令和6年度更新の1,165台に引き続き、令和2年度に整備をし、R7年12月末にリース期間満了となった16小学校及び小牧中学校、篠岡中学校、光ヶ丘中学校を除く、6中学校分の児童・生徒用タブレット10,501台を更新しました。第1期での端末整備では小学校はiOS端末、中学校はWindows端末と、小学校と中学校で異なるOSを使っていますが、バッテリーの持続時間、故障率、使い勝手などを総合的に考慮した結果、第2期（令和6年9月以降）に導入する端末については小学校・中学校ともにiOS端末に統一して更新をしました。</p> <p>・児童・生徒用端末のフィルタリングソフトをフィルタリング設定の汎用性や柔軟性を考慮し「i-FILTER」に変更をしました。</p>					

第2次小牧市学校教育 I C T 推進計画の取組状況⑤

4. 学習効果を高めるソフトウェアやサポート体制の整備

①教育ソフトウェア・コンテンツの充実

具体的な取組み	R3	R4	R5	R6	R7	R8
指導者用デジタル教科書 小学校 中学校	活用 更新・活用	⇒ ⇒	⇒ ⇒	更新・活用 ⇒	⇒ 更新・活用	⇒ ⇒
学習者用デジタル教科書	実証検証	導入方針検討	⇒	整備・活用 (小)	整備・活用 (中)	⇒
授業支援ツール	活用	⇒	他ツールとの 機能比較	⇒	更新	⇒
デジタル教材 ドリル教材 情報モラル教材	活用・他教材 との機能比較	⇒	小学校 更新	中学校 更新		
プログラミング教材	活用・他教材 との機能比較	⇒	更新・活用 (小)	更新・活用 (中)	⇒	⇒
当初 (R4.3)	<ul style="list-style-type: none"> こどもたちの学びを深めるために、I C T 機器を有効に活用できる教育ソフトウェアやデジタルコンテンツの活用方法の検証を進めるとともに、国等の動向を注視しつつ学習者用デジタル教科書の有効活用について研究します。 					
R7実績 (R8.2)	<ul style="list-style-type: none"> 小学校のドリル教材を「eライブラリ」から「ドリルパーク」に変更しました。 学習者用デジタル教科書については、文部科学省の予算を活用して英語は全小中学校、算数・数学は約6割の小中学校（小学校10校、中学校6校）に導入しました。（対象：小学校5・6年生及び中学校1～3年生） 					

第2次小牧市学校教育 I C T 推進計画の取組状況⑥

4. 学習効果を高めるソフトウェアやサポート体制の整備

具体的な取組み	R3	R4	R5	R6	R7	R8
②教員研修の充実						
導入機器やソフトウェア活用研修	実施（夏季教職員研修）	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
I C T 機器活用事例・情報モラル研修	先進校の事例を活用した研修	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
③情報教育支援活動						
導入業者による機器サポート	操作説明会の開催・機器サポート	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
I C T 支援員によるサポート	活用サポートの見直し	更新	⇒	継続検討		
④1人1台タブレットP C の幅広い活用	活用	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

当初
(R4.3)

- ・ こどもたちの学びが深まる I C T 機器の活用ができるような授業研究や研修を定期的に行います。
- ・ I C T 支援員を継続的に配置し、I C T 機器及びソフトウェアの活用方法の助言や、機器操作、校内研修の企画等を支援し、教員の負担感軽減を図ります。
- ・ 授業だけでなく学校生活の様々な場面で I C T 機器の活用によってこどもたちの学びが深まるように事例の蓄積と活用方法の検証を進めます。

R7実績
(R8.2)

- ②「ロイロノート」「管理者向け生成AI」「生成AIの操作」「iPad標準アプリ」「iPad」「ドリルパーク」の操作説明会・研修を実施しました。説明会等の動画をアーカイブする等、資料がいつでも閲覧できるようにしました。
- ③ I C T 支援員が各校を月4回程度訪問し、I C T 機器及びソフトウェアの活用方法の提案、授業支援、校内研修支援等を行っています。